

内乱が国を引き裂き、イエメンは百年来の最悪の飢餓に襲われる

人道的危機が増大し続けるにつれて、1,300万人が餓死に瀕している

【訳者注】こうした悲惨な報告から思うことは、人間は皮膚という壁によって隔てられているのだから、絶対的に別々のはずだという、馬鹿げた、科学的、またはサタンの唯物論を卒業しないかぎり、こうした悲劇は、いつまでたっても終わらないということである。こういう恐ろしい加害行為は何であれ、アイツラがやっているのではなく、我々がやっているのであり、被害者の苦痛も、お気の毒な人々の苦痛でなく、我々の苦痛である。このような想像力を養うために、我々は今のこの時代を生きている。

この国連の女性職員の言葉、「間違いなくこれは私たちの恥なのです」——我々はこれを何度も嘔みしめるべきである。また、こういう事実を隠すメディアは、もし善意に解釈すれば、温室育ちの我々を気遣ってくれているのかもしれないが、それは無用の配慮である。イエメンに関する、これまでの記事を、いくつかあげておく——

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170227.pdf>

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/150923.pdf>

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/150831.pdf>

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/150410.pdf>

Jay Greenberg, www.neonnettle.com

October 16, 2018



国連職員によれば、イエメンは、「百年来の最悪の飢餓」から 3 か月を過ぎたばかりである。

人道的危機が始まったのは 3 年前、サウジアラビアがイエメンに対して空爆を始めてからであり、それ以来この国は、イランの支援する内乱の手に掴まされている。

国連によれば、現在、1,300 万人が餓死の危機にあるという。

食料不足で苦しむ市民の、ショッキングな写真が現在、出回っており、これまで以上に問題の深刻さが明らかになった。

Metro によれば、国連の Lise Grande は BBC にこう語った：——

<https://metro.co.uk/2018/10/15/yemen-on-verge-of-worst-famine-in-100-years-as-civil-war-rages-on-8038202/>

「私たちは 21 世紀に移行するときに、エチオピアで見たような、ベンガルで見たような、ソビエトの一部で見たような、飢餓を見ることは、もうないだろうとっていたと思います——それはありえない、受け入れられないことだと。

「多くの人々は、それは二度と起こらないと、自信を持っていました。ところが現実には、イエメンでまさにそれが起こっているのを、目前に見ています。

「食料がないために死の危機にある、1,200 万から 1,300 万の罪のない市民がいると、我々は推定しています。」



ある父親が、栄養不良の自分の娘に水を飲ませている——ホデイダの病院の、ある救急センターで。

これは世界の恥ではないのかと訊ねられると、彼女は答えた：——

「その通りです。**間違いなくこれは私たちの恥なのです**。私たちは、毎朝起きるとともに、苦しんでいる人々を助け、戦争を終わらせる、あらゆる努力をするという決意を、改めるべきなのです。」

彼女によると、国連と人道主義活動家たちは、昨日、湾岸都市ホデイダ近くの空爆が、少なくとも 15 人の市民を殺したと言い、イエメンのシーア派反乱軍を狙った、サウジ主導の連合軍による空爆を、彼らは非難したと言った。

フーシ派 (Houthis) と呼ばれる反乱軍の発表したビデオには、無残に壊れたミニバスが、散乱する食料品や女性のハンドバッグとともに映されていた。そして反乱軍の将校が、前日にも、Jebel Ras 地域の空爆によって、他に 20 人が負傷したと言っていた。

フーシ派は、同じ家族の 5 人が車に乗っていて殺されたと言い、多くの女性や子どもが死傷者の中にいたと言った。

身の安全のために名を明かさない目撃者たちは、この攻撃は、この地域の反政府派のチェックポイントを狙ったものらしいと言った。

「イエメンで仕事をしている国連の諸機関は、市民に対する攻撃を躊躇なく非難し、犠牲者の家族たちに心からお悔やみを申し上げます」と、国連のイエメン人道支援統制担当のリーズ・グランデは言った。

「国際人道法の下で、紛争の当事者たちは、予防と均衡と区別の原則を尊重する義務があります」とグランデは言った。

「交戦国は、市民を保護するように、傷つけたり障害を負わせたり、殺したりしないように、可能なあらゆることをしなければなりません。」

ホデイダには、国連や他の人道支援物資を運び入れる、重要な港湾施設があるので、イエメンの紛争の中心になっていて、それを支配している反政府軍を追い出そうとする、連合軍に合同する地上軍がいる。

イエメンの国連の言うところでは、6月以来、ホデイダ地域では、170人以上が殺され、少なくとも1,700人が負傷し、42万5,000以上の人々が、自分の住居を追われている。

ノルウェーの難民協議会もまた、この攻撃を非難し、このようなイエメン市民に対する爆撃を指して、ぞっとするほど習慣的になってしまった、「受け入れられない」行動だと言っている。

「市民を殺し、障害を負わせる攻撃は、イエメンの戦争では、もはや変則的ではなくなっている」と、人道支援団体は声明で言い、昨年夏以来の、市民死傷者数の恒常的な上昇を要約している。

8月初めには、何ダースもの人々が、病院とマーケットの外側で起こった爆発で殺され、次には1週間後、いっぱいの子供を乗せたバスが、空爆に襲われたとき、50人以上が虐殺されたとそれは言っている。そして更に1週間後、25人の人々が、ホデイダ近郊の我が家から逃げるときに、戦闘によって25人以上が殺された。

「男、女、子どもたちに対する攻撃の太鼓の響きは、不気味な日常の響きになってしまった」と彼らは言う。

サウジの率いる連合軍は、2015年以來、反政府軍との膠着した戦争の中に、閉じ込められている。

推定1万の人々がこの紛争で殺され、国連が世界の最悪の人道危機と呼んでいるものを、それは産み出している。



何百万の人々が、イランに支援された内乱の結果として、住処を追われている

アメリカに援助されたアラブ首長国連邦が、フーシ派が長期戦に備えて深く潜ったホデイダを奪おうと、地方の兵力を用いて全面攻撃を指導している。

何千もの市民がこの間に挟まれ、地雷や、白砲の援護射撃や、空襲に捕らえられている。

もし UAE に支援されたイエメン軍全体が、この都市を奪うなら、それは反乱軍に対する最大の勝利になるだろう。しかし紅海岸の戦闘もまた、イエメンを直ちに飢餓に陥れるだろう。

——以上